



別所だより

横浜市立別所小学校

令和5年7月19日発行



自分らしく生きること

校長 大島 宏二

夏の日差しの中で行われている水泳学習の様子を見にプールサイドへ顔を出すと、教室とはまた違った表情の子どもたちと出会います。ここ数年は、プールでの活動も様々制限されていましたが、以前のように少しでも長く、速く泳げるように…と取り組む子どもたちの姿が戻ってきたことに嬉しくなります。楽しい夏休みまで、もうあとわずかとなりました。

先月、南公会堂で「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト南区小学校審査会」が開催されました。これは、「国際平和のために、自分がやりたいこと」というテーマにSDGsに基づく17のいずれかの視点と関連付けて、自らの具体的な方策を3分以内でスピーチするという横浜市教育委員会が主催する事業です。区内17校の代表児童が集まって行われ、本校からも校内選考を経た6年生が出場しました。

「だれかへの「いいね」で世界に虹を」

M・K

《前略（ジェンダーフリーに関わる具体的な体験をスピーチ）》誰もが「自由」で「平等」に自分の気持ちを表現することができ、素直に幸せを感じられる社会になるよう一歩踏み出すために、この想いをスピーチにして伝えることにしました。私が主張することで大きな流れが作れるとは思っていません。けれど、「小さい所に神は宿る」という言葉があります。身近で小さいことを積み重ねてこれからの世の中を作っていくのは私達です。すべての人が好きなことや得意なことを自由に発信できるようになり、互いに「いいね」と言い合えるようになれば、どんなに世界が広がるでしょう。皆さんも一緒に考えてみませんか。

このスピーチは、自分の想いを聞き手に伝えたいという気持ちのこもった本人の豊かな表現力とも相まって、南区小学校部門の最優秀賞を受賞しました。そして、7月25日に開催する市内18区から集まる区代表児童による本選に出場することが決まりました。

「男らしく」「女らしく」ではなく、「自分らしく」生きることの大切さを訴えたこのスピーチは、本校学校教育目標の『ともに 生き生き とともに にこにこ』につながるものであり、別所小学校の代表として胸を張って、精一杯の主張をしてきて欲しいと思います。